

奥州街道二十六次①

	宇都宮	古称、現宮（うつのみや）。地内にある二荒山神社の別名「現宮」が転じた。または、下野国「一の宮」が転訛したという説もある。
18	白沢	当地の白髭神社の社号に因む。
19	氏家	氏家は、氏家氏の姓。鎌倉時代、宇都宮城主・宇都宮朝綱三男の公頼が争乱の時期を乗り越え、鬼怒川に天然の要塞に築城した。公頼は、この時、「氏家氏」を興して、領地の地名を「氏家」と号した。
20	喜連川	喜連川という川は無い。当地内には、荒川・内川・江川・岩川の四つの川が貫流している。荒川は、昔話で「狐川」と呼ばれていたが、転じて「喜連川」が発したという説が有力。
21	佐久山	古称、狭山（さやま）。狭い山（傾斜地）の意。狭山が転訛。
22	大田原	古称、大俵（たいひょう）。武蔵国阿保氏の何某が来住・居館を構えて大俵氏（たいひょうし）を名乗ったのが始まり。大俵（たいひょう）氏13代の時に、当地・前室に本拠を移し、姓を大俵から大田原に、地名も前室から大田原に改称した。
23	鍋掛	旅籠が人手不足の際、宿場総出で鍋・釜をたくさん掛けて、炊き出しに協働したことに因む。
24	越堀	越は、越える・渡る。堀は、川の意。川越えする場所。当地内の那珂川が増水して川留めになった際、仮宿所を作った。後に、仮宿所を中心に宿場が開けていった。
25	芦野	芦野氏の姓。鎌倉時代、地頭であった芦野氏が陣屋・城を構えた。
26	白坂	古称、白坂。白っぽく見える坂の意。当地は石英質安山岩の地質で、地表面の石英質（透明の結晶）が光って地面が白っぽく見える。
	白河	地内を流れる「白川」の換え字。白川の河床は石英質安山岩の砂地から出来ているので、石英質（透明の結晶）が光って川が白っぽく見える。